

## 安全性向上のキーポイントは労使関係の正常化にある！ JR 連合第9回安全シンポジウム開催

「事故を決して忘れることなく悲しみを二度と繰り返さない安全最優先の風土を私たちの手で創りだして行こう」松岡 JR 連合会長は静かに決意を述べた。

JR 連合第9回安全シンポジウムは11月9日、静岡県「ホテルアソシア静岡」において300名の仲間を集め開催された。イーストユニオンからは菅野委員長、国井事務局長など6名で参加した。

冒頭あいさつに立った JR 連合松岡会長は「JR 福知山線事故から10年の月日が経過したが事故はまだ終わってはいない。私たち JR 連合は安全問題を最優先課題と位置づけ、各社の安全性向上に取り組んできた」と、この間の運動を総括。「今年は北海道の青函トンネル事故、東の神田電架柱倒壊事故、九州における異線侵入など重大インシデントが発生をしている」と問題認識を明らかにした上で、「原因を究明して事故の芽を摘んでいくための議論を私たち働く者の立場から提言していこう」と運動の実践を求めた。



第1部では JR 連合吉田組織部長より、福知山線事故を契機とした JR 連合の取り組みと今後の方向性について基調報告と問題提起がなされた。特に JR 連合の策定をした「安全指針」、「重大労災防止の行動指針」については、取り組みの拡大と深度化の問題が述べられると共に自然災害に対しても一考していかなければならないとの方向性を示された。

第2部では労働科学研究所 酒井所長より「会社組織の枠を越えた安全管理体制のあり方」について基調講演を受けた。講演では「安全の視点から見た鉄道産業の安全の仕組みについて」考察された。特に安全文化の再構築では正しく、ありのままを「報告する文化を築くべきだ」とされニアミス、エラーを進んで報告できる信頼関係の構築が重要であるとされた。更に実践にむけて「権威のある側が遠慮しがちな側に対して正確なコミュニケーションの必要性がある」と話され安全性向上のポイントは関係の正常化にあることを指摘された。

第3部のパネルディスカッションでは「更なる JR グループの安全性向上に向けて」とのテーマで ADEKA 労組笠井委員長、東海ユニオン半田交渉部長、西労組羽野野務部長、西日本電気テック労組山部書記長から各単組の取り組みが述べられた。東海ユニオン半田交渉部長から「各級機関が組合員の声を基に迅速かつ適切に会社に改善を求めている」との報告がなされた。また、西労組羽野野務部長から「再発防止の為に原因究明を徹底している。そのためにも報告文化を熟成させる」として「責任追及させない制度の確立の取り組みの具体策」が話された。最後に JR 連合河村事務局長は「安全性向上にむけた職場から実践していこう」とまとめられた。

